

山びこだより

第6号 2015.3



芦北地域林業研究グループ 会長 一藤泰助氏の整備森林にて

平成26年度 福岡県林業改良普及協会「先進地視察研修」を開催

福岡県林業改良普及協会では、会員の意識の向上と知識習得を図るとともに、県内林業の発展に寄与するために、先進地視察研修を実施しました。

今回は、森林・林業・木材等における「地域資源の有効活用」という点に着眼し、先進的な取り組みが行われている熊本県水俣・芦北地域を視察先とし、県内の林業関係者30名の方が参加されました。

(1) 期 日 平成27年1月28日(水)～1月29日(木) 1泊2日

(2) 視 察 地 熊本県葦北郡芦北町、水俣市 ほか

(3) 参加者数 平川光臣 会長 他 計30名

(4) 視察研修

①「森林経営計画と林業経営、産直住宅の取組み」池松重孝氏

②「森林作業道と林業経営」「芦北地域林業研究グループの取組み」一藤泰助氏

③「地域森林資源の有効活用、合板会社が求めるもの」新栄合板工業株式会社

(5) 研修地の概要、参加者の声(抜粋、順不同、敬称略)

「研修先で学んだこと」「全体を通じて感じたこと」「研修で学んだことを活かし、今後何をするか」を参加者レポートとして提出してもらいました。その一部を掲載します。

①「森林経営計画と林業経営、産直住宅の取組み」池松重孝氏

136ha余りの所有森林において森林経営計画を作成し、産直住宅への木材供給を行うなど、地域のリーダーとして活躍されています。なお、その取組みや経営が高く評価され第53回全国林業経営推奨行事において林野庁長官賞を受賞されています。

栗秋 貴博（福岡県八女森林組合）

池松氏の林業の形態は、夫婦2人と、Iターンの若者など少数での作業ですが、ご自身で森林経営計画を立てられるなど意欲的に施業が行われています。また、価格変動のある木材市場への出荷だけでなく、産直住宅の取組みをされ、安定的な価格での木材取引がされる点はとても良い所だと思います。

地元林業研究グループの参加により労働力の確保と、素早い木材の供給など、横の連携も出来ており、事業に活かされています。さらに「生産者と消費者との繋がりを大切にすることで、自分自身のモチベーションアップにも繋がっている」と話されました。

私も色々な「つながり」を大切に、これからの道を探して行きたいと思います。

今回初めて県外の森林の様子を見て、山主さんの林業に向ける熱い思い、木材生産と消費量の変動、木材の輸出入など時代の流れによる大きな変化を直接感じました。

材価の低迷、後継者の減少などにより、無関心となった林業に、少しでも興味を持ってもらえるように、今回の研修で感じた熱意を忘れず、私も少しでも熱く林業を語れるようになりたいと思います。



長伐期施業経営の方針のもと、択伐が繰り返されている池松重孝氏の山林



「将来の山の姿を思い描き、実践しています」と笑顔が印象的な池松氏

森 順子（ふくおか森づくりネットワーク）

自伐林家として、自分の山を活かし工夫をしながら収益を上げる「林家の理想的な姿」でした。ご夫婦や仲間と一緒に地域興しに取り組む姿勢に、たいへん学ぶものがありました。池松氏の山づくりや山の活用について、もっと時間をかけて他の箇所も拝見し学びたいと思いました。

林家の声が外部に届いていないと思うので、私自身ももっと情報発信をしていきたいと思いました。

元村 桂助（筑後農林事務所）

池松さんは、①全ての作業を自家労働力でやる。②皆伐をしない。③素材も市売りだけではなく、産直住宅や合板工場へと付加価値を高めるなど、有利な販売をする。④森林経営計画を立て、施業の目的を明確にし、シカ被害を防ぐ、広葉樹を育てるなどその山に必要な手入れを行う。との経営方針について自信を持って語られていた。

現在、経営には家族のほかIターンの若者や林業入門者も自伐の労働力として加わっていた。山づくりが生き生きと楽しそうに行われており、工夫次第で林業を通じた中山間地域の活性化ができることを再認識することが出来た。

池松さんや一藤さんの山づくりの研修を踏まえて、福岡県各地の林研グループがすぐ取り組める活動を考



えてみると、①自己の森林の様子を把握するため森林経営計画を作成する。②森林施業のための壊れにくい森林作業道づくりの取り組みを始める。③自伐の木材の共同集荷、販売を工夫、などが考えられるのではないか。県職員として出来ることを洗い出し活動の支援をしていきたい。

田中 秀子（福岡県林業改良普及協会）

林業の現場に入ることも少なかった私の目に、まず飛び込んできたのが、池松さんの山。真っ直ぐ伸びた杉の大木、そして木の間隔と樹下の空間の広さ。そこからは「林業に対する思いや取り組む姿勢」が理解でき、何よりも説得力がありました。そして、一番の理解者である奥様と、そして林業に熱い思いを持つ仲間との姿もしっかり感じることができました。

一藤さんの山は、下刈りが徹底され、快適で歩きやすい作業道が通っており、森林内での作業が安全に、効率よく出来そうに見えました。

お二方の山には、「自伐林家の原点と理想」が詰まっていると心底から感激しました。

今回、池松さんの山の大きな木の切株を見て、いつか伐採しているところも見てみたいと思いました。

初めて視察研究に参加することで、林業の重要性を改めて認識しました。普及協会の事務局として今後も知識を深め、林業関係者の皆さまのお役に立ちたいと思います。

②「森林作業道と林業経営」「芦北地域林業研究グループの取り組み」一藤泰助氏

芦北地域林業グループの会長として、地域の森林資源に付加価値を付けるため、様々な取り組みにチャレンジされています。美しく整備された森林と森林作業道の作設、ニーズに合わせた採材など学ぶものがありました。

末松 元（福岡県指導林家）

山のヒノキは、枝打ちなど手入れが行き届いており、また曲がりやが少なかった。木を大切にしている気持ちが伝わってきた。それは2mの杭木を生産することからも理解される。

森林作業道については、研修バスが入る場所ということで、開設が比較的楽な地形であり地質も崩れない好条件の箇所であったが、今後の作業において機械を導入した場合に、非常に安全で、生産性も相当上がるのではと感じた。

今後は、林業の明るい光を見つける為、木材の需要拡大を、例えば木材加工工場の設立や木材の海外輸出など、どこに見いだすかを考えないといけない。もし、合板工場が福岡近郊にもあれば福岡の林家も活性化するのではと思った。

一方、働く現場では、後継者不足となっているので、林業労働力の確保、後継者育成が必要と考える。

研修で見聞を広めるだけに終わらず、林業活性化のため「福岡で行動を起こす」ことが必要と思う。

平川 光臣（浮羽森林組合）

視察したヒノキ林は、手入れが行き届いて林内が明るく、これから間伐をするため下払いがしっかり行われていました。さらに氏の竹林は、タケノコを早く見つけるためナイロンコードで草を切っているとのことで、あまりにもきれいに整備されているので驚きました。



一藤氏の森林は、とにかく手入れが行き届いていた。感嘆の声！

自伐林家として有利に木材を販売するため、間伐材の太さ、長さを考え出荷先を選ばれているとのことでした。

また、森林作業道を自己流で開設した箇所は、雨水で路面が洗掘されており、適切な指導を大阪府指導林家の大橋慶三郎さんから受けた道は、崩壊も浸食も無く大丈夫でした。

「百間は一見に如かず」やっぱり見ることで、先達の指導を受けること。そして実践し、経験を積むこと。そして創意工夫をすることが大事だと実感しました。

また、Iターン、Uターンの人材が育っていることも素晴らしいと思いました。

今回、森林作業道は、植栽から全伐までの森林施業、そして災害等の見回りに必要不可欠であることを再確認しました。私の浮羽地域は路網密度が高いので、その維持補修に努め、今後も森林作業道の作設に努めたいと思います。

最後に、研修会場の古石交流館「みどりの里」（廃校となった小学校校舎を活用した地域拠点）において池松さんご家族で準備頂いた昼食は、地元の食材をふんだんに使った、猪肉入り手打ちそば、おにぎり、お漬物、サラダ、まんじゅう など、とても美味しく心のこもった「おもてなし」でした。本当にありがとうございました



壊れない森林作業道を学び、実践している
実際に歩くことで違いが分かる



採材は出荷先を考え、太さ、長さを分けて
土場に積んでいる

浦田 健一（京都森林組合）

本当に丁寧に山を施業されており、また森林作業道や竹林の整備については、詳しい人に教えを請い、謙虚に実践されている事に感服しました。組合員さんへの指導の参考にさせていただきます。

できれば現地で施業しているところを拝見したかったです。

また、合板工場は初めてであり、勉強になりました。工場が近場であれば出荷を検討したいと思いました。

野見山 和子（ふくおか森林インストラクター会）

小規模な林家でも計画的な伐採、多角経営で収入の安定化が図られているのが素晴らしい。これは川上から川下までの地域関係者が、力を合わせ連携することで未来に繋がることの実例であり、その姿が見えたことで、林家の将来への希望を感じた。

今後、このような地域の取組みをしっかりと行い、それをまた横へ横へと広げ、互いに助け合うことで連携する「組織」を築きたい。また、農山村部と都市がどのようにしたら有機的に結び合えるかを考えていきたい。

後を継ぐ人々がたくさん誕生するために、この研修に若い人がもっと参加すると良いと思った。

黒川 裕子（飯塚農林事務所）

地元産材を活用した家づくりの取組みが良いと思った。設計士や製材所、そして林業研究グループが連携し、その結果、木材が高値で取引できるようになっている。



今回の研修は内容が良かった。今後もいろいろな地域の林業経営や企業を視察したい。

新栄合板工業株式会社が使用する合板の原料丸太について、福岡県、長崎県、佐賀県からは僅か1%しか納入されていない、とは知らなかった。もっと納入できるような仕組みを検討すべきと思うが、具体的にどうすれば良いのか、難しいが答えを見つけていきたい。

廣 伸俊 (ふくおか森林インストラクター会)

池松さんや一藤さんのお話は、自分の考えている林業を信念を持って実践している、という感じがしました。ぜひ日本林業の目指す成功例になってほしいと思います。

また林業施業において「路網が非常に重要なポイント」ということをよく耳にしますが、実際に大橋慶三郎さんが指導された森林作業道を歩く機会を得たのは貴重な体験でした。

地域での「産直住宅」の取り組み、いわゆる地産地消の実践や、子ども達への林業体験学習などがどの様に行われているかを聴くことが出来、大変参考になりました。

新栄合板の工場見学は“百聞は一見にしかず”の通りで、一つ一つの工程は単純なのですが実際見ているとなるほどと思うものばかりでした。

何よりも、参加された皆さんといろいろな話ができ、親交を深められたのも収穫でした。

森林、林業について一般の方の関心は、少ないように思います。私が現在行っている小学生を対象とした森林環境教育や、一般の方々との森林内活動の中で、今回経験して見聞を広げた知識や情報を分かりやすく伝え、一人でも多くの方に森林、林業へ関心を持ってもらえるような活動をしたいと思います。今後も機会があれば、ぜひ参加させてください。

③新栄合板工業株式会社の地域資源の有効活用について

九州唯一の合板工場で、年間15万㎡の素材を加工しています。合板材料となる木材調達は、時代とともに外材（南洋材→ロシア材）→国産材と変遷しており、現在はスギ材が70%を占め、ヒノキ材製品の取り組みも始まっています。

または、地元の林業研究グループなど、自伐林家からの木材入荷についても、しっかりと優遇枠を設けるなど積極的に取り組まれています。

なお、福岡県、佐賀県、長崎県からの木材調達割合は全体の約1%に対し、合板製品の出荷先は福岡県が1位とのこと。「福岡県からの木材入荷も期待しています」とのことでした。



合板原料の大量の丸太が、水保港にストックされ、台船で工場に搬送

養田 昌治 (糸島市 地域ネットワーク 里浜つなぎ隊)

企業として生き残りをかけて10年後50年後の取組みをされていることがすごく印象的だった。

木材の確保、製品の品質管理、価格の安定、新たなニーズの開拓、需要と供給のバランス、生産者、地域環境にも配慮された優良企業だと思う。

わが国の山村地域の再生は、森林資源を有効に活用し、林業を活性化することなしにはありえない。木材価格の安定、国産材の計画的供給、と併せて、木を使う建築主の増加が望まれる。

近年、資源 環境 社会文化面での持続性・安定性・柔軟性が損なわれ始めており、木材資源はバイオマス発電等で大量に使われるようになるだろう。木材を計画的かつ有効に利用し、限りある資源を大事にしたいと思う。

真鍋 智子 (福岡県広域森林組合福岡南支店)

国内外からの原木輸入調達から始まり、製品化するまでの長い時間を経て、合板が製品となり出荷される様子を勉強させていただきました。今後、国内のヒノキを使った建設用合板（商品名：チサンコート）が主力になって、国産材の需要がさらに高まればと思います。

今回、池松さんや一藤さんの山林に足を踏み入れ、森林作業道の開設や、自分の山の木材生産、販売等の説明を聞いたことで、林業の奥深さに改めて気付かされました。

リフォーム住宅や、新築の住宅に使用されている建築資材など折りに触れ「どの様に木材が使われているのか」を考えるとともに、現場で働いている人に「生産した材が何に使われているか」を聞きたいと思いません。そして新栄合板工業株式会社で視察し学んだことを多くの人に伝えたいと思います。

永末 昭雄 (福岡県広域森林組合嘉飯山支店)

木材を合板にして使用することは、用途を拡大し、強く、軽く、安価で使用することができるなど、木材の価値を大きく高めることとなる。その意味では、新栄合板工業の取組みは、地域林業の活性化も含めて、林業・木材産業にとって重要であると考えます。

しかし、木材が大径化していく中、私はなるべく無垢材で大きな板を作れないかとも考えている。

今後は、①森林の（資産価値ではなくて）経済的価値を高めるために、森林所有者の意識の醸成が必要であり、その働きかけをすること。②原木を安定的に少しでも高く売るための研鑽を森林後継者、森林組合、自分自身も続けること。③林業後継者が多くの知識を習得し、技術を向上させること。そしてその支援も行うこと。④産直住宅の取組みについても検討していきたい。

能美 俊夫 (北九州市林業研究グループ)

新栄合板工業と、木材の供給元として一藤氏をはじめとする林業研究グループが繋がっており（取引は林研価格！）、地域での連携・ソーシャルビジネス的な動きとなっていることが興味深かった。

2月のはじめ新栄合板に再度伺い、丸太を桂剥きした残り「芯棒」を購入してきました。いろいろ活用をしています。



合板の原料となる丸太が機械に投入されるのを食い入るように見つめる研修参加者



桂剥きされた薄板
この後、積層→圧着→乾燥→切断整形される



九州材を活用した新合板「チサンコート」
地産と治山（型枠）を掛けたネーミング



今回ご多忙の中、快く研修を受け入れご指導をいただきました、池松様ご夫妻、一藤様、熊本県芦北地域振興局の前田様、熊本県林研前会長の吉井様、新栄合板工業株式会社の皆様、本当にありがとうございました。研修で学んだことを活かして地域林業の発展に努めたいと思います。

平成26年度福岡県林業活性化シンポジウム 県と共催

地域における林業課題の解決を目指すとともに、森林施業の集約化を図り、森林経営計画の作成を推進する森林施業プランナー等の中核的な林業技術者の育成のために、県と共催し林業活性化シンポジウムを開催しました。



- (1) 期 日 平成27年2月25日(水)
- (2) 会 場 ホテルレガロ福岡(福岡市)
- (3) 参加者数 76名
- (4) 行事概要

- ①普及指導実績発表
- ②講演「演題：林業経営と人材育成」多野東部森林組合 代表理事組合長 新井和子氏(群馬県)
- ③意見交換会

シンポジウムでは、県の林業普及指導員から、地域課題の解決に対する取り組みや実践内容について6つの実績発表が行われました。

また新井先生からは「地域林業の担い手としての森林組合の役割」や「森林所有者から信頼を得るための工夫」、そして「組織運営のあり方」など実例を交えた、たいへん参考なるお話を頂きました。

今後も林業活性化のため県と協力し、幅広い情報の提供に努めていきたいと考えています。



県主催の林業関係新任者研修会を後援

県内市町村職員の林業担当者等を対象とした林業関係新任者研修を後援しました。

- (1) 期 日 平成26年7月16日(火)
- (2) 参加者数 31名(15市町村の林務職員他)
- (3) 研修・視察行程
 - ①福岡県森林 林業 木材産業の現状について(講義)
 - ②木材市場(福岡県森林組合連合会 浮羽事業所)
 - ③木工体験施設(カフェ「木ん家」 うきは市)
 - ④製材工場(株式会社 堤木材 うきは市)

まず、福岡県の森林・林業・木材等の現状や課題について講義の後、木材市場や製材所等の視察見学を行いました。一連の流れを理解してもらったことで、「市場も製材所も初めて見た」「木に対する興味がわいてきた」「日頃の業務の目的が見えたことで意欲が湧いた」など前向きな声が多く聞かれました。





今回の研修が、受講した市町村林務担当職員の参考となり、さらに今後の林業行政の円滑な運営に役に立てればと期待しています。

第61回代議員会 福岡県指導林家紹介 話題提供が行われる

福岡県林業改良普及協会第61回代議員会が平成26年6月26日に行われ、京都森林組合参事 田中 稔氏を議長とし、4つ議案が審議され、全て原案とおり承認されました。

また、同日認定式が行われた「福岡県指導林家」17名の紹介と、「糸島市の地域材利用の取組み」「福岡県主伐推進の取組み」の話題提供がありました。

今後、指導林家との連携をさらに深め、また福岡県内で始まった新しい取組みに対し、協会としても推進していきます。



第61回代議員会（福岡県指導林家の紹介）

平成26年度 関係団体等の支援活動

○福岡県林業研究グループ連合会（県林研連）の活動を支援

県林研連は、県内の林業後継者（のべ97名）を全国・地域の研修会などに派遣すると共に、タケノコや原木キノコ栽培塾、林業架線集材研修など、各種講習会を積極的に実施しています。

○篠栗町林業振興研修大会を支援（平成26年10月3日）

各種表彰行事や広島県指導林家「安田 孝氏」による記念講演などが行われました。

福岡県林業改良普及協会 会員募集中!

福岡県林業改良普及協会では、新規会員を募集しています。会員には、森林や林業に関するタイムリーな話題が満載の「林業新知識」を毎月お届けします。林業の仲間、森林に興味を持っているお知り合いなどにも、ぜひご紹介ください!

(1) 年会費 特別会員12,000円、普通会员2,000円

(2) 主な特典（※は特別会員のみ）

①森林・林業専門誌「林業新知識」を毎月お届けします。

②全国林業改良普及協会が発行する図書が割引価格で購入できます。

※③月刊誌「現代林業」（4,600円/年）を毎月お届けします。

※④全国林業改良普及協会が発行する「普及双書3冊組」3,300円）を配布します。

編集後記

フォレスト・フレンズが終了し1年ぶりに企画した県外の先進地視察研修でした。研修後のレポートには、「林業や農山村への課題解決に向け、自らが前向きに取り組みたい」という言葉が多くありました。視察先の真摯な姿勢と林業に対する熱い思いが伝わり、充実した研修になったのだと思っています。

今後も、森林・林業・木材産業の発展のため研修会や講演会、意欲的な団体への支援を行いたいと考えておりますので、会員の皆様の積極的な参加とご協力をお願いします。（木下）

■編集発行 福岡県林業改良普及協会（福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター内）
〒839-0827 福岡県久留米市山本町豊田1438-2 (TEL) 0942-45-7868
■発行日 平成27年3月 (FAX) 0942-45-7901